

# 令和8年(2026年)第1回羽村市議会定例会 一般質問通告項目一覧表

発言順(質問日)

議員氏名 及び 質問項目

1人目

(3月3日)

【4番】野崎和也(60分)

## 1. 第六次羽村市長期総合計画の後期基本計画策定について

- (1) 後期基本計画における計画の策定プロセスと進捗状況は。
- (2) 基本計画と実施計画の関係性を伺う。
- (3) 前期基本計画策定以降の社会変化を踏まえ、計画の妥当性をどのように再検証し、修正するのか。
- (4) 人口減少社会の中であっても、子供たちが希望を持ち、若い世代が住み続けたいと思い、高齢者が安心して暮らせるまちを実現するために、後期基本計画をどのような都市像のもとに策定するのか。
- (5) 市民が主体的に地域づくりを行うために必要な計画であることから、行政が「やること」を並べる計画ではなく、市民と共に「まちをつくるための羅針盤」へと転換することが必要ではないか。

## 2. 「部活じまい」という視点での部活動地域展開について

- (1) 部活動が教員の長時間労働の一因となっている現状について、市としてどのように認識しているか。
- (2) 地域展開後において、勝利至上主義へ偏ることなく教育的視点をどのように担保するのか。また、指導者研修の実施やガイドライン整備についての考えを伺う。
- (3) 市内中学校の部活動備品について、公費購入品、PTA購入品、寄附品等の区分整理は完了しているのか。併せて、今後の取扱い方針について伺う。
- (4) 地域展開により、経済状況や家庭環境による体験格差が生じる懸念がある。特に、低所得世帯の生徒が参加できなくなる事態を避けるための具体的な支援制度はあるのか。
- (5) 「部活じまい」は、長年続いてきた学校文化をどのように整理し、未来へ引き継ぐかという自治体の責任に関わる課題である。市として、部活じまいに関するロードマップやガイドラインを策定すべきではないか。

2人目

(3月3日)

【2番】櫻沢裕人(60分)

## 1. 将来を見据えた街路樹の維持管理・更新

### (1) 現状と課題

- ① 街路樹は多様な機能を有する一方で、道路路上「道路の付属物」であるため、街路樹の維持管理に当たっては道路交通機能の確保や通行者の安全が優先されると考えるが、市の見解は。
- ② 街路樹の樹勢不良・老木化・大径木化が進行しているように見受けられるが、市の見解は。
- ③ 現状のまま街路樹を植栽し続ければ、将来的に市民生活への直接的な被害や財政負担の増加が起こる可能性があると考えますが、市の見解は。
- ④ 道路構造令では歩道の有効幅員を2.0m以上確保することが示されているが、街路樹の植栽により法令の基準を下回る歩道が複数見受けられる。街路樹により十分な幅員確保が難しい箇所について、改善に向けた対応は。

### (2) 適切な維持管理・更新に向けた取組

- ① 羽村市道路整備計画では街路樹の維持管理を含め、予防保全型の維持管理の必要性を掲げている。しかし、限られた人材で大量の街路樹を維持管理・更新するためには、長期的な視点に立ち、街路樹に特化した計画を策定する必要があると考えるが、市の見解は。

- ②令和6年第4回定例会において、中嶋議員が公園台帳等管理システムによる街路樹の管理について質問したところ、システムの活用に取り組む旨の答弁があったが、その後の状況は。

## 2. 市営水道事業の将来像

- (1)市は平成12年の水道事業都営一元化に関する東京都からの意向確認に対して、市営水道事業を継続する考えを示していた。その後、東京都とはどのような関係を築き、要望に至ったのか。
- (2)要望書の提出は、市として都営水道への事業統合の意向を公に表明したものと整理してよいか。
- (3)要望書の中で「事業運営に関する基礎調査」を行うことを要望しているが、基礎調査の内容は。
- (4)要望書では、都営水道への事業統合が必要と判断した理由として、施設面、財政面及び人材面での課題を挙げているが、具体的な状況は。

### 3人目

(3月3日)

#### 【11番】中嶋 勝(60分)

##### 1. スポーツセンターの日影規制抵触について

- (1)課題の多いスポーツセンターだが、今回は日影規制に抵触していると聞いた。その原因と今後の影響について、市民・利用者にもわかりやすい説明を求める。
- (2)今後の対応について
- ①日影規制抵触の解消について、改修で対応するのか、それとも建て替えをするのか、対応についてどう考えているのか。
  - ②改修をする場合、ストップしている大規模改修も併せて実施する事になると、どれくらいの予算規模と改修期間が必要だと見込んでいるのか。
  - ③建て替えの場合、おおよそどれくらいの予算規模と改修期間が必要だと見込んでいるのか。また、他の場所への移転という選択も検討するのか。
  - ④これまでの不具合と改修だけでも利用者に対し、大きな不便をかけている現状にある。今後、代替施設の確保や広域施設利用時の支援が必要であると考えますが、どう対応するのか。
- (3)日影規制への抵触で長い年月にわたって御迷惑をかけてきた当事者に対する対応と、今後の再発防止への取組を聞く。

##### 2. 公共施設再配置構想について

- (1)令和8年3月を予定していた公共施設再配置構想の策定を市は6か月延長した。公明党としては、これまで1年の延長を訴えてきたところだが、延長を6か月としたその理由を聞く。
- (2)この6か月で何をするのか。更に市民への周知、そして意見聴取をしていくための施策を伺う。
- ①公共施設の在り方検討市民会議やワークショップ、シンポジウム等を実施してはどうか。
  - ②特に関係団体等からのヒアリングや利用者からの意見聴取を実施してはどうか。
  - ③各施設のカルテを公表しているが、もっと詳細なデータ、例えば健全性、安全性、経済性、立地性、快適性、活用性などを項目別にグラフ化したレーダーチャートとして公表してはどうか。
- (3)スポーツセンターの日影規制抵触により、その取組いかんで公共施設再配置構想にも少なからず影響が出ると考える。財源も含め、構想を練り直す必要があるのではないか。
- (4)廃止や整理統合に伴う施設の今後の使用方法も併せて議論していくことが求められていると感じる。そのようにできないか。

4人目  
(3月3日)

### 3. 照明 LED 化計画について

- (1) 以前、2027 年問題について質問したが、その後、計画を作成し、令和 8 年度から一部の施設で実施するとのこと。どのような計画か伺う。
- (2) 公共施設再配置構想では、廃止・統合施設の検討に入っている中で、無駄なく効率よく進める必要がある。その考えを聞く。
- (3) 数ある所管施設毎の対応ではなく、包括管理としての事業展開が望ましいと考えるがどうか。また、市内事業者を工事事業者として優先する契約内容を望むがどうか。
- (4) LED 化による市の財政負担を少しでも軽減できるよう「ESCO(エスコ)事業」を検討してはどうか。

### 4. 災害関連死認定の規定について

- (1) 災害関連死と思われる事例があった場合、「災害弔慰金の支給等に関する条例」により、弔慰金が支給される。しかし、市では、災害関連死の認定をする機関の設置規定が未整備となっている。事前に認定審査会の設置等の規定を設けておくことで、有事のスピーディな弔慰金の支給につながる。大きな災害が頻発している昨今、早急に整備しておく必要があるのではないか。

【10 番】 富 松 崇 (60 分)

#### 1. 公共施設再配置構想について

- (1) 地域集会施設について
  - ① 「公共施設再配置構想(たたき台)」では地域集会施設を 23 施設から 10 施設程度に統合としているが、現在の方針について伺う。
  - ② 以前、「地域集会施設の統合を進める中で、町内会・自治会の合併は考えていない。」というような話があったと記憶しているが再度、確認する。
  - ③ 地域集会施設の統合が進み、町内会・自治会のエリア外にある地域集会施設を利用するようになった場合、災害発生時に使用する資機材の保管場所や一時集合場所をどのように考えているか。
- (2) 子育て支援施設(児童館)について 「たたき台」では中央児童館を 1 期(令和 8 年度～令和 12 年度頃)に廃止するとなっているが、中央児童館内には「奈賀学童クラブ」と「天王台会館」が併設されている。検討中の案ではあるが奈賀学童クラブはシルバー人材センターの場所へ移転となっているが、現在の方針について伺う。また、天王台会館の方針についても伺う。
- (3) 公共施設再配置構想の策定について 公共施設再配置構想の策定期間について約半年延長することになった。約半年間延長することにより、行財政運営・施設の維持管理への影響はないか伺う。

#### 2. 工事・物品購入等、契約事務などについて

- (1) 発注実績について
  - ① この 3 年間の市発注の工事・物品購入で市内・市外事業者の受注件数の内訳はどうか。
  - ② 以前、「地域活性化の観点、市内事業者の受注機会の確保の観点を重視しつつ、適正な契約事務の執行に努める。」との答弁があった。市の考えを再度、確認する。
- (2) 予算の決め方について
  - ① 施設の改修工事、修繕工事、設備の修繕、物品の購入など、予算はどのように決めているのか。
  - ② 予算を組むため、業者へ見積り依頼すると思うが、その方法(電話・FAX・メール・来庁など)について伺う。
  - ③ 小規模事業者は一人親方や数人の従業員で営んでいる場合が多い。長期総合計

画にある「三つの投資」にも「行政のデジタル化への投資」とある。業務効率化の観点からも、見積り依頼などで事業者が来庁することなく依頼・提出ができるよう工夫する必要があると考えるが、どうか。

### 3. 新たな歳入の確保について

- (1) 新たな歳入の確保に向けて、現在の取り組みについて伺う。
- (2) 現在、庁舎内や市内公共施設で不要となった備品はどのように処分しているか。
- (3) 学校で使用している児童・生徒用のタブレットや校務用パソコン、市の職員が使用しているパソコンは定期的に更新していると思うが、再利用以外の使用済の端末はどのように処分しているか。また、廃棄しているのなら、その費用はどのくらいかかっているか。
- (4) 今後、公共施設の整理統合を進める中で多くの不要備品が出ると想定するが、どのように考えているか。
- (5) 複数の自治体で不要となった庁内備品などをフリーマーケットサイトで販売に取り組んでいる。リユースによるごみの減量と循環型社会の実現の観点からも羽村市でも取り組むべきと考えるが、どうか。

### 4. 防犯対策について

- (1) 市内に防犯カメラを設置する場所について、基準としている方針のようなものがあるか。
- (2) 現在の設置場所について伺う。
- (3) 町内会・自治会などから設置に関して、要望などはあるか。
- (4) 市内の地域集会施設で防犯カメラが設置されている場所はあるか。
- (5) 地域集会施設に防犯カメラを設置するべきとの声があるがどうか。
- (6) 昨年4月から実施している「住まいの防犯機器等購入緊急補助金」について
  - ① 町内会・自治会が地域集会施設に防犯カメラを設置する場合、補助の対象になるか。
  - ② 防犯カメラの申請が2番目に多いと、令和7年12月定例会での秋山議員の一般質問答弁であった。市民から設置業者の紹介などの問合せはあるか。

## 5 人目

(3月3日)

### 【9番】 浜 中 順(60分)

#### 1. 公共施設再配置構想の策定期間の延期に伴い、市民の意見を丁寧に聞き取り、使い勝手の良い施設となるよう検討を

- (1) 市はどのような考え方と方法で、市民の意見を聞き取り、更なる検討を深めようとしているのか。
- (2) 市は建物の統廃合に意識が向いているように思えるが、市民にとっては今の施設利用がどう確保・改善されるかが一番の関心事である。これまでに市民の意見と検討によって廃止される予定としていた各施設の利用の代替え案をどのように改善したか。
- (3) これまでの意見で変更される修正案について2回目の懇談会を開くような考えもあるようだが、どのような工夫をするのか。
- (4) 該当施設ごとに存続や代替案などを検討する会を数多く開く必要があるのでは。
- (5) 施設利用の確保や、代替案をしっかりと準備するために、全体として時間をかけて丁寧に検討を進め、必要に応じて計画と執行については延長すべきでは。
- (6) 児童館は、市内でバランスの良い配置となっている。子供の居場所としての要望が高まっている今、3館全てを存続する検討も必要ではないか。

#### 2. 不登校傾向の児童・生徒のための校内別室指導はどう取り組んできたか

- (1) これまで都の校内別室指導支援員の補助を受けられなかった5校について、「特色ある学校づくり交付金」や「学校と家庭の連携推進事業支援員謝礼」の予算を

- 工夫することで不登校対策事業がどう進んだのか。
- (2) 令和7年3月に都の校内別室指導支援員の補助が終了した3校は、これまで通り、支援員の確保と不登校傾向の子供たちへの支援ができたのか。
  - (3) 不登校傾向の子供たちの支援は、校内別室指導が最も効果的な方法であると思われるが、他に効果的な方法があると考えているか。
  - (4) 各学校からは、校内別室指導を行うには予算が少なすぎると聞いている。子供たちの将来のために市が責任をもって、予算を確保すべきではないのか。

### 3. 羽村市水道事業を東京都水道事業に統合するための課題について

- (1) 市は、1月28日付文書において、東京都水道局長宛てに、「都営水道への事業統合に関する要望」により、都営水道との事業統合について、要望を行っているが、その回答はどうだったのか。
- (2) 「都営水道への事業統合に関する要望」で羽村市が課題としている、「水道管路の耐震化および水道施設の改修等」「専門的な知識や技術を持った職員の確保」について、都営になることによってどう維持・改善されると想定しているのか。
- (3) 水道料金はどうなる想定か。
- (4) 羽村のおいしい水は、存続できる想定なのか。

## 6 人目

(3月4日)

### 【5番】金子ひとみ(60分)

#### 1. ジェンダーギャップの解消について

- (1) 市では、ジェンダーギャップの解消のために、どのような取組を行っているか。
- (2) 豊岡市の「ジェンダーギャップ解消戦略」を参考にした、取組について。
  - ① 豊岡市のように、数値目標を伴う戦略的な取組としてジェンダーギャップ解消を位置付けることについて、市の見解を伺う。
  - ② 若者や女性が「住み続けたい」「戻ってきたい」と思えるまちづくりを進めるため、就労支援や働き方に関する施策の中に、ジェンダーギャップ解消の視点をより積極的に反映させてはどうか。
  - ③ 豊岡市では、企業の働き方改革や人材確保につなげる取組として職場のワークイノベーション戦略を進め、女性従業員のキャリア形成支援や企業を『安心カンパニー』として認証する制度を展開している。ジェンダーギャップ解消の視点を取り入れた施策を企業と連携して進めていくことで、市内企業の働きやすい環境づくりを支援できると考えるがどうか。
- (3) 住みやすさの向上は、人口減少対策にもつながると考える。就労や子育て、地域活動などにおけるジェンダーギャップの解消が、まちの魅力向上につながると考えられるが、市の見解を伺う。
- (4) 防災、産業、人材育成などの各分野においても、行政全体を貫く視点としてジェンダーギャップの考え方を反映させていくことが重要と考えるが、こうした視点を第六次羽村市長期総合計画の後期基本計画に、より広く位置づけていくことが必要ではないか。市の見解を聞く。

#### 2. 重層的支援体制整備事業の実施について

- (1) 重層的支援体制整備事業の導入に向けた三つの支援について
  - ① 相談支援として包括的相談支援があるが、分野を限定しない相談の入り口をどこに設置するのか。また関係部署や関係機関につなぐ仕組みをどのように構築するのか。
  - ② 参加支援として、既存の取組では対応できない狭間ニーズをどのように把握し、どの部署が中心となって対応するのか。
  - ③ 地域づくりに向けた支援について、地域の担い手が不足している中で、地域活動をどのように支えていくのか。また、支援が必要な人を地域の居場所につな

ぐ仕組みをどのように構築するのか。

- (2) 市内に、3か所の地域包括支援センターが設置されているが、重層的支援体制整備事業を実施することで現在の連携体制との違いや、新たに構築される仕組みについて具体的に聞く。
- (3) 市内には、子ども食堂をはじめ、オレンジカフェ、子供学習支援等の地域の居場所づくりや見守り活動など、住民や団体が主体となって取り組んでいる既存の地域資源が存在している。既存の地域資源をどのように生かし、連携していく考えなのか伺う。
- (4) 四万十市では、「あったかふれあいセンター」を基盤として、分野を限定しない相談支援や、地域に寄り添う伴走型支援を展開している。こうした取組のうち、市に応用可能と考える点は何か伺う。

### 3. 認知症・MCI は早期対応が重要

- (1) 市では現在、認知症に関する普及啓発や相談支援を行っている。どの段階で住民が相談につながっているのか。また、MCI など、早期段階での気づきが十分に機能しているか。現状と課題について伺う。
- (2) 市では認知症に関する啓発事業を実施したり、紙のチェックリストを配付したりしているが、文字を読むことや記入を行うことに負担を感じる方も一定数いると考えられる。電話のみで完結する、認知機能をチェックするシステムは、高齢者本人の心理的・操作的負担が少ない手法である。
  - ① こうしたハードルを下げる仕組みを認知症施策の「入り口」として、健康フェアなどで実施する事で、イベントの実効性を高めるものと期待されるが市の見解は。
  - ② 場所や時間にとらわれず、自宅等から気軽に認知機能を確認できる仕組みを導入し、早期に相談先や次の行動につなげられる取組を行う考えはあるか。
- (3) 東京都では、令和10年度まで認知症サポート検診事業として「普及啓発」及び「検診事業」に対する10/10補助制度が設けられている。都の補助制度を積極的に活用しながら、実施に向けた検討を進めるべきと考えるが、市の見解を伺う。

## 7人目

(3月4日)

【16番】石居 尚郎(60分)

### 1. 都営水道への事業統合に関する市の方針について

- (1) 市長が事業統合を要望するに至った決断の経緯と理由は何か。
- (2) 東京都とのこれまでの協議と今後の協議について聞く。
- (3) 水道料金やサービス、施設等への影響について聞く。
- (4) 事業統合へ至るまでの課題は何か。
- (5) 市民への説明責任と情報提供をどのように果たしていくのか。

### 2. 移動に困難を抱える方と公共交通の在り方について

- (1) 土日・祝日のコミュニティバス「はむらん」運休により移動手段がなくなることによる、市民生活への影響をどのように認識しているか。
- (2) 他自治体が実施しているデマンド交通の検討や、羽村市が実施している障がい者のタクシー費用助成制度を高齢者等へ利用者の拡充を図るなど、早急なフォローが必要ではないか。
- (3) 青梅市が導入している「マイナンバーカード活用タクシー助成制度」について、羽村市としても実施してはどうか。
- (4) 今後の公共交通再構築に向けた市の方針について、はむらん・デマンド交通・タクシー助成などを含めた「総合的な地域公共交通計画」を策定する考えはあるか聞く。

### 3. 子どもを取り巻く支援体制の強化について

- (1) 児童発達支援センターの開設を契機として、教育・福祉・保健の連携を強化し、

- 日野市のような包括的な支援体制を羽村市でも構築してはどうか。
- (2) 不登校や発達課題、家庭問題が重なるケースに対し、教育相談室や適応指導教室、スクールソーシャルワーカーなどが連携して対応する体制は十分に機能しているか。今後の強化策について伺う。
  - (3) 各学校に配置されている特別支援教育支援員や校内別室指導のスタッフの人員確保について、どのような課題認識を持ち、どのような対策を講じていくのか。
  - (4) 青梅市のフリースクールのような、学校外の学びの場との連携や支援の可能性について、羽村市としての見解を伺う。

【7番】秋山 義徳(60分)

1. 羽村市の観光政策の活性化に向けたフレッシュランド西多摩「よつ葉の湯」との連携について

- (1) フレッシュランド西多摩「よつ葉の湯」(以下、「よつ葉の湯」と言う。)のオープンは、羽村市として待ち望んだ明るいニュースであり、市をPRする上でも絶好の機会であると考え。そこで、羽村市の発展のため、どのように連携し、活用していく考えかを伺う。
- (2) 「よつ葉の湯」や構成市町と連携した観光計画などは考えているのか。
- (3) 令和8年4月初旬から「はむらん」の土日祝日の運行を取り止めることが通知された。「よつ葉の湯」も含めて土日祝日の羽村市の観光に大きな影響があると考える。
  - ① 「はむらん」が土日祝日の運行が取り止めとなり「よつ葉の湯」の交通手段もなくなる予定だが、西多摩衛生組合とはどのような話をしているのか。また、土日祝日運行取り止めについて理解を得られているのか。
  - ② 「はむらん」の土日祝日運行取り止めに伴う「よつ葉の湯」利用者の市内観光への影響について、どのように考えているか。駅前にシェアサイクルなど公共交通に変わる手段を整備することは考えていないか。
  - ③ 西多摩衛生組合から交通手段について何か要望はきていないか。
- (4) 羽村市観光協会から、「よつ葉の湯」と連携した観光計画について提案は出していないか。
- (5) ふるさと納税返礼品に回数券などは採用できないか。

2. 公共施設再配置について考える

- (1) 公共施設再配置構想策定時期の変更について
  - ① 単なる期間延長としないために、市はこの期間をどのように進めていく考えか。
  - ② これまで当初の計画で進めることが必要と主張していたが、策定時期の変更をした場合、今後の計画に影響は出ないのか。
  - ③ もっと意見を伺う必要があるなら、zoomを活用したオンライン説明会など、様々な手法も検討すべきと考えるがいかがか。
- (2) 市内小・中学校の統廃合について
  - ① 統合先の学校の校舎を新築もしくは大規模改修をすることは考えていないか。
  - ② 廃校となる校舎の利用方法について、どのように考えていくのか。
  - ③ 第1期にあたる武蔵野小学校と松林小学校、羽村第二中学校と羽村第三中学校の統合について
    - ア いつどのように結論を出すのか。
    - イ 児童・生徒、教員間の事前交流が必要と考えるがいかがか。
    - ウ 学校の統廃合に際し、スクールバスを望む声があるがどう考えているか。
    - エ 児童・生徒がこの学校なら楽しそう、行きたいと思える学校づくりが大切と考える。今後の学校の特色など、どのように決めていくのか。
- (3) コミュニティセンターを廃止し駐車場にする提案があるが、どのように進めて

いく計画で、いつ頃利用開始できる計画と考えているのか。

- (4) 施設の統廃合は施設がなくなることをご理解いただくのと同時に、統合先の施設を市民が期待できるようにリニューアルをし、地域の方が利用したいと思うメリットを提示することが必要と考えるがいかがか。
- (5) 廃止される公共施設が借地の場合、どのようなプロセスで地権者に話をするのか。
- (6) 令和7年第1回定例会で公共建築物の広域連携について一般質問し、「公共施設再配置構想に直接的に反映することは難しい状況」との答弁であった。各市町村が独自に多くの施設を維持していくことは厳しい状況である。とは言え、各市町村が独自に再配置計画を作成してからでは一定の施設が多くなるなど、偏りが生じる可能性がある。そうなる前に議論を始める必要があると考えるがいかがか。

## 9人目

(3月4日)

### 【8番】高田 和登(60分)

#### 1. 令和7年度東京都・羽村市・日の出町合同総合防災訓練について

- (1) 令和7年9月定例会での野崎議員の質問に対し、市長は「今後、参加していただいた関係団体の皆様からご意見をお聴きするとともに、東京都と改善点などについて協議を行い、合同総合防災訓練の総括を行ってまいります。訓練で得られた知見や経験については、地域防災計画や避難所運営マニュアルに反映していく考えであります。」と答弁している。
  - ① 関係団体の皆様からはどのような意見があったか。
  - ② 東京都と改善点などについての協議は行ったのか。また、どのような改善点が出されたのか。
  - ③ 合同総合防災訓練の総括は実施されたのか。されていないければ、いつ実施予定か。
  - ④ 避難所運営マニュアルへの反映はいつ頃の予定か。
- (2) 令和7年12月定例会での石居議員のヘリコプターの着陸拠点の質問に対しては、「堰下レクリエーション広場を追加し、ヘリコプター発着可能地点を16か所とする予定」との答弁があった。羽村市地域防災計画の令和8年修正では発着可能地点を16か所に、災害時臨時離着陸場も3か所に修正されていた。スピーディーな対応を評価する。ヘリコプター発着可能地点について、質問する。
  - ① 羽村市地域防災計画には「別表以外でも、主たる災害地域等に近い発着可能地がある場合は、別に選定することができる」との記載もあるが、東京都立羽村高等学校、東京都立羽村特別支援学校、羽村リトルシニアに貸付している市有地なども発着可能地点に検討できないか。
  - ② 天竺運動公園、神明台公園なども発着可能と思われるが、いかがか。
  - ③ ドクターヘリの離着陸を考えると、市外でも公立福生病院や青梅総合医療センターも別表に記載しておいた方が良く考えるが、いかがか。
- (3) 令和7年12月定例会での秋山議員の質問に対し、「実施した訓練の結果を整理し、災害時における各種対応のマニュアル化に取り組み、このマニュアルを今後の防災訓練で活用していく」との答弁があった。
  - ① このマニュアルは「羽村市地域防災計画」とは別に作成されるのか。
  - ② このマニュアルと「羽村市地域防災計画」との位置付けはどうなるのか。
- (4) 東京都・羽村市・日の出町の情報共有について
  - ① 東京都と羽村市・日の出町の間で合同総合防災訓練をするにあたり、打合せは何回開催し、延べ何時間の協議がされたか。
  - ② 訓練スケジュールとしては8月29日の「本部審議訓練」から始まり、31日の給水輸送訓練まで9項目で実施され。内6項目の訓練は参加対象を「関係機関のみ」と限定していた。
    - ア 同時並行で実施される訓練も多かったが、見学や参加は可能にはならなかったのか。
    - イ 他の訓練に見学や参加はできなかったが、市はどのような知見や経験を積む

ことができたのか。

- ③今後、これほど大規模な防災訓練の実施はしばらくないと思われる。知見や経験を冊子にまとめる予定はないか。
- ④堰下レクリエーション広場で実施した「孤立地域対応訓練」と宮の下運動公園で実施した「救出救助訓練・展示体験訓練」は東京都が主体で実施し、栄小学校で実施した「避難所運営訓練・給水輸送訓練」は羽村市が主体で実施したという印象を持った。
  - ア 「孤立地域対応訓練」では羽村市ほどの程度、関与していたか。
  - イ 「救出救助訓練・展示体験訓練」では羽村市ほどの程度、関与していたか。
  - ウ 「避難所運営訓練・給水輸送訓練」では東京都の職員は何名参加したか。

(5) 会場への移動手段について

- ①羽村堰下橋が8月30日午前9時45分から午後1時30分まで通行止めになった。羽村堰下橋は「堰下レクリエーション広場」で実施した「孤立地域対応訓練」を見学する方にとって重要な交通手段である。羽村駅西口から臨時巡回バスが運行され、はむらん羽村西コースもあったが、乗車できなかった見学者もいた。臨時巡回バスを2台にするなどの対策が必要だったと考えるが、いかがか。
- ②羽村堰下橋の迂回は羽村大橋しかない。徒歩での迂回は相当に厳しい方もいる。ヘリコプターの離着陸時の風の影響を配慮した措置と思われるが、一時的に通行可能にすることはできなかったのか。
- ③8月31日の救出救助訓練・展示体験訓練が実施された宮の下運動公園への移動手段は、通常のはむらんの運行の他、いこいの里前から臨時巡回バスが運行されたが、乗車できなかった見学者がいた。臨時巡回バスを2台にするなどの対策が必要だったと考えるが、いかがか。
- ④宮の下運動公園や堰下レクリエーション広場について、臨時巡回バスの乗降場所がネット上で表示されていなかったようである。見学者に対して情報提供が不十分と考えるが、いかがか。

## 2. 羽村中央駅(仮称)構想について

(1) 羽村中央駅(仮称)構想について

- ①羽村駅と小作駅は約2.4km離れている。中間にJRの駅があれば良いという市民からの声をいままでに聞いたことはあるか。
- ②公共施設再配置構想において、学校や地域集会施設の統廃合などを具体的に検討していくことは大変重要である。それと並行して多くの市民に納得していただくためには「縮充」というポジティブな発想を取り入れ、廃止した施設の跡地に、市民ニーズを満たした新しい施設を建設することも、重要と考えるがいかがか。
- ③羽村市スポーツセンターの今後の是正計画策定にあわせ、隣接地に羽村市の核となる新しい施設として、羽村中央駅を設置してはどうか。

### 【15番】 馳平 耕三(60分)

#### 1. 年収の壁の見直し、消費税の減税による税収減の影響と対応は

- (1) 消費税の減税で、羽村市は、年間いくら税収減となるか。
  - ①消費税が廃止された場合は。
  - ②消費税の食料品非課税の場合は。
- (2) 年収の壁の見直しで、羽村市は、年間いくら税収減となるか。
  - ①年収の壁が160万円となる場合は。
  - ②年収の壁が178万円となる場合は。
- (3) 年収の壁の見直し、消費税の食料品非課税が現実味を帯びているが、そうなった場合、羽村市はどこに代替財源を求めるか。また、歳入、歳出のバランスをどう確保する考えか。

10人目

(3月4日)

## 2. テレビはむらの在り方の見直しを

- (1) テレビはむらの意義と目的は何か。
- (2) テレビはむらのように、自治体が運営するテレビがあるのは、全自治体のうち何%か。
- (3) 1993年(平成5年)から、今までにテレビはむらの運営に総額でいくら費用がかかったか。また、職員は延べ何人が関わってきたか。
- (4) (3)の費用対効果についてどう考えているか。
- (5) 市長は、「ブラはむら」の取材などによく出演している。取材時の食事は自費で支払っているのか、運営費で支払われているのか。
- (6) 税収が厳しく財政も悪化し、テレビ離れも進む中、テレビはむらの在り方を見直すべきという声も強いが検討しているか。

## 3. 魅力ある近未来型市役所を作ろう

- (1) AI相談員やメタバース活用で相談窓口がバーチャル化される中、市役所はどうあるべきと考えているか。
- (2) 市役所のオープンプローアを活用し、職員と住民の対話を促進し、住民参画型のプロジェクトが実施される空間となれないか。
- (3) 市役所の1階には使用されていない空間が多く、活気が感じられない。前定例会で外国人のコンシェルジュサービスについて質問したが、市役所に用事の無い人でも気軽に立ち寄り、集って話ができるスペースの設置等、何か有効利用を考えられないか。
- (4) 市役所の庁舎内や周辺広場で、マルシェや地域イベントを実施する機会を増やせないか。
- (5) 茅ヶ崎市、丸亀市のように、研究課題を決めて、若手職員の柔軟かつ斬新な発想を取り入れるための自主的な研究チームを作れないか。

## 11 人目

(3月4日)

### 【6番】菅 勇真(60分)

#### 1. 羽村市の教育について

- (1) 不登校児童・生徒について
  - ① 令和4年度から令和6年度の3年間、90日以上欠席のある児童・生徒数はどう推移しているか。
  - ② 令和4年度から令和6年度までの不登校児童・生徒出現率の推移は。また、都と比較してどうか。
  - ③ 心理や福祉の専門家らの支援を受けられない不登校児童・生徒が出ないように、どのような工夫をしているのか。
  - ④ 不登校になる前に子供の悩みや不安に気づき、速やかに組織的に対応することが重要であるとするが、市では具体的にどのような対策を行っているのか。
  - ⑤ 不登校の中学3年生及び保護者に対し、高校の情報、入試対策、面談等について、具体的にどのような取組を行っているのか。
- (2) 特別支援教育について
  - ① 特別支援学級・通級等の指導・支援の対象と思われる児童・生徒がいた場合、保護者へのお知らせの仕方、関係機関への案内及び支援等はどのように行われているのか。
  - ② 特別支援学級に関する児童・生徒の就学相談はどの時期に、どのようなメンバーで構成し、実施しているのか。また、児童・生徒及び保護者の意見はしっかりと反映されているのか。
  - ③ 個々の児童・生徒の特性、保護者の意向、関係者の判断等を踏まえ、将来を見据えた進路先を決定していくことが重要であるとするが、市として工夫していることは。

- ④近隣自治体の中には、通常学級に入った状態で入学式、卒業式を実行している自治体もあるが、羽村市でも同様の形で行うことはできないか。

## 2. 市民の声について

- (1)公園管理について、指定管理者記載の業務日誌を担当部署は定期的に確認しているのか。また、業務に対する指導・助言等を行ったことはあるのか。
- (2)防犯カメラについて
- ①現在市内には何基の防犯カメラが設置されているのか。
- ②双葉町内に防犯カメラは設置されているのか。
- ③今後、市内に防犯カメラを新たに設置する予定は。
- (3)羽村市でも出没が確認されたクマについて
- ①羽村市内にクマ等に対応できる狩猟免許保有者は何人いるのか。
- ②クマが出没した場合、市内の学校等への連絡及び対応策等はどのように行われるのか。
- (4)神明台にあるスーパーアルプス前の産業道路を横断する人が増え、いつ事故が起こってもおかしくない危険な状況になっているが、市としてその状況を把握しているか。
- (5)都立羽村高等学校からの声について
- ①羽村高校では卒業後の進路として就職する生徒が増えている一方、就職しても途中で辞めてしまう人も一定数いると聞く。そういった卒業生に、羽村市内の企業を紹介するような場を設けられないか。
- ②動物公園通りの富士見斎場駐車場付近に横断歩道を設置することはできないか。
- (6)フレッシュランド西多摩及びヒノトントン ZOO(羽村市動物公園)集客の取組について
- ①リニューアルされたフレッシュランド西多摩「よつ葉の湯」の集客を高めるには、広報活動がとても大切なことと考えるが、市として広報等の支援はどのように行うのか。
- ②ヒノトントン ZOO(羽村市動物公園)の集客を増やしていくことが必要と考える。例えば、17歳以下を対象にしたダンスフェスティバルなどを開催することで、保護者とその家族と一緒に来園して集客につながるかと考えるが、市としての見解は。
- (7)市役所の窓口サービスについて
- ①戸籍謄本等の証明書が必要となり正午前に窓口での申請を行ったところ、担当者より「この後昼休憩に入りますので、お渡しは1時以降になります」と伝えられた。羽村市は、昼の時間帯に証明書の発行は行っていないのか。
- ②発行する証明書について、申請から発行までにかかるおおよその時間は。

12 人目

(3月5日)

【1番】林田 敦子(40分)

### 1. ACPについて

- (1)救急搬送時や入院時に、本人の意思や緊急連絡先、延命治療に関する希望が分からず、医療現場が判断に苦慮している実態があることを市は認識しているか。
- (2)医療現場の実情を踏まえ、「お薬手帳に本人の死生観に関する内容を盛り込む」ことは有効であると考え。福生市では、お薬手帳に輪ゴムで留めておくことができる、エンディングノートの簡易版「もしもカード」を作成しているが、市で実施する考えは。
- (3)市内医師会・歯科医師会・薬剤師会と連携し、お薬手帳を通じた ACP 情報の共有について協議する考えはあるか。
- (4)独居高齢者や身寄りの少ない方、障害のある方など、意思表示が特に重要な方への ACP の周知をどのように進めていく考えか。

13 人目

(3月5日)

【13 番】鈴木 拓也(60分)

1. 松林小学校・羽村第三中学校の再編計画はどうか？

- (1) 松林小学校・羽村第三中学校の再編計画についての、現時点での教育委員会の考えについて
- ① 松林小の再編計画の検討状況と、到達点はどうか。
  - ② 同校の通学に関する検討状況と、到達点はどうか。
  - ③ 三中の再編計画の検討状況と、到達点はどうか。
- (2) 両校の全保護者と全児童・生徒からの意見聴取は行うことになったか。
- (3) 市民の意見をどう学校の再編計画に生かしていく考えか。
- (4) 学校再編について、9月の公共施設再配置構想の策定まで、こういった取組を行う考えか。

2. 区画整理をこのまま続けると、借金まみれになるのでは？

- (1) 都市計画税の用途(令和6年度)について
- ① 東京たま広域資源循環組合負担金に13万5千円使っている。どういう内容か。
  - ② 下水道事業会計負担金、補助金及び出資金に3億536万4千円使っている。どういう内容か。
  - ③ 加美緑地公園取得地方債償還費に1482万5千円使っている。どういう内容か。
  - ④ 都市計画道路3・4・16号線地方債償還費に863万3千円使っている。どういう内容か。
  - ⑤ その他、一般財源分に1億2411万7千円使っている。どういう内容か。
- (2) 現在進めている区画整理事業の6か年計画では、1年あたり平均約32棟の移転を行うこととなっている。このペースでは、総戸数970棟を移転するためには令和30年度(2048年度)までの期間が必要となる。そのことを認識しているか。
- (3) 6か年計画では、今後4年間、毎年8億円の借金をする予定となっている。仮にその後も同額の事業債を発行し続けた場合、令和14年度(2032年度)の返済額は現在の2倍程度、令和25年度(2043年度)の返済額は、現在の都市計画税収入と同額程度になる。そのことを認識しているか。
- (4) 市は、区画整理の事業費及び事業債返還費はすべて都市計画税で賄うとしているが、税率を上げないと無理ではないのか。
- (5) 以前提案した区画整理のエリア除外や、整備手法の見直しが必須なのではないか。

3. 児童館の中高生タイムを充実したものにしよう！

- (1) 中高生タイムは、各児童館で週一回行う計画となっている。少なすぎるのではないか。
- (2) Wi-Fi環境は整備されるのか。
- (3) 中高生に対応した備品の整備が必要ではないか。
- (4) 職員の配置はどのようになるのか。
- (5) 今後、徐々に日時・内容を拡大していく計画か。

14 人目

(3月5日)

【18 番】門間 淑子(60分)

1. ジェンダー平等でいきいきとした羽村市に

- (1) 羽村市男女共同参画推進条例の改正について
- ① 条例制定から時間が経過し、新たな課題が生じている。多様な性の尊重、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの尊重、パートナーシップの尊重など、規定してはどうか。
  - ② 男女共同参画社会基本法では、会議における一方の性が10分の4未満であって

はならないと規定し、東京都男女平等参画基本条例では、附属機関等の委員の選任についていずれの性も40%以上となるよう努めなければならないと規定している。審議会等附属機関での男女の構成比を規定してはどうか。

(2) 第5次羽村市男女共同参画基本計画について

①計画期間は令和4年度から令和8年度までとなっている。今後の予定はどのようなものか。

②青梅市のように、ジェンダー平等推進計画にしてはどうか。

(3) 職員の男女間給与差異と女性管理職比率の公表義務について

①令和6年度に内閣府が実施した「職員の男女間給与差異」について、羽村市は未回答になっている。なぜか。

②「令和6年度職員の給与の男女差異の情報公表」は公式サイト内に掲載されているが、探しにくい。また、令和6年度以前の公表値は見つけれない。改善できないか。

(4) 従業員数101名以上の企業は、男女間賃金の差異や女性の管理職比率について、令和8年4月から公表が義務化される。市内企業への情報周知は、どのようになされているか。

(5) ジェンダー平等の実現には、性別による無意識の思い込みの解消が不可欠と考える。

①市民への啓発事業は検討されているか。

②学校では、教職員や児童・生徒向けにどのような取組がなされているか。

**2. コミュニティバスはむらんの土日・祝日・年末年始の運行取り止めは突然すぎるのではないか**

(1) 運行取り止めに至った経緯について

①理由は何か。

②検討はいつから始まったのか。

③コミュニティバスはむらん運営推進懇談会では、どのような協議を行ったか。

④利用者への公表が突然だったのはなぜか。

(2) 今後も、コミュニティバスの運行は継続的に維持できるのか。

(3) 運行補助金は、今後どのように増減するのか。

**【14番】山崎 陽一(60分)**

**1. 区画整理撤回要求第75弾**

(1) 羽村駅西口地区の都市基盤整備事業に対する施行者の現状認識を聞く。

①羽村駅西口土地区画整理事業は、人口増加やモノレール導入などを前提に計画されたが、社会情勢の変化で人口減少や財政悪化など、羽村市の現状は大きく変化していると認識しているか。

②区画整理は公共施設の整備。都市計画道路整備及び駅前交通機能の向上が本事業の中心目的と認識して良いか。

③優先事項である都市計画道路3・4・12号線、3・4・13号線の2路線と駅前交通広場の整備は東京都交付金75億円で可能と思うが、これらの整備が市民の利便性向上に役立つと考えているか。

④現在の人口動向や財政状況を踏まえた道路整備事業と、区画整理による面整備での費用対効果の検証はしているか。しているならばその結果を聞く。

⑤国の社会資本整備総合交付金の目的と区画整理での対象は、2025年度までの交付額はどうか。

⑥交付金を受けても社会経済状況などの変化で計画変更が可能だが、区画整理事業の見直しや優先整備区域の設定を検討できると認識しているか。

⑦羽村駅西口のような既成市街地での区画整理は取り壊し移転のため権利者負担

15 人目

(3月5日)

- が大きく、事業の遅れの要因にもなっていると認識しているか。
- ⑧権利者負担の軽減や持続可能な住民生活の観点から、新たな手法を検討すべきと考えるが、施行者の見解を聞く。
  - ⑨「住民の合意は不要」で始めた計画。実施段階での移転の可否が事業への権利者意志であり、「強制施行はしない」ことを確認する。
  - ⑩11年後、2036年度終了ならば、人口減少や財政状況を踏まえ、都市計画道路と駅前交通機能の確保を優先し、それ以外の区域は地区計画等への移行を含めた政治的判断を行うべきだが、検討する考えはあるか。
- (2)6か年実施計画では3つの優先事項に特化し、引き続き様々な工夫策を継続的に講じて長期化を抑制するという。ならばその具体策と目標を聞く。
- ①優先事項3点に対し、事業費、事業期間を削減するために、継続的に講じている整備手順の工夫とはどのようなものか、具体的に聞く。
  - ②都市計画道路3・4・12号線の羽村大橋から新奥多摩街道までと、JR青梅線踏切までの完了想定時期を聞く。
  - ③駅前交通広場と3・4・13号線、それぞれの着手と完了想定時期はいつか。
  - ④中断移転者数と仮換地先返還時期は。また、今後、中断移転となる件数と、仮換地先使用の想定時期は。
  - ⑤実施計画2年での移転予定は68棟だが、現状はどうか。その要因と今後への影響を聞く。
  - ⑥3年目以降に行うという実施計画の後半事業は、2036年の事業期間終了までの想定か。
  - ⑦優先事項3点の完了はいつ頃と想定しているか。2036年の事業期間終了までの目標か。現在の進捗状況で可能か。事業期間終了で未完成ならどう対応するのか。
  - ⑧区域の一部除外で減歩率が上がる、との答弁があった。鎌倉街道の福生側で終了し、42ヘクタールの事業計画を変更、東京都交付金75億円に含まれる土地代、移転補償費を充てても権利者負担が増加するなら、その根拠を聞く。
  - ⑨6か年実施区域は鎌倉街道福生側だが、羽村東小学校西側地区の一部が事業区域なのはなぜか。工事時期はいつと想定しているか。
  - ⑩西口商店街との懇談の目的、対象地区、商店件数、権利者数は。
  - ⑪移転拒否の家屋には作業工程の変更などで対応、との答弁があった。区画整理に反対ならば減歩や清算金の対象外、ということを確認する。
  - ⑫「広報はむら」に「土地区画整理事業ってナニ？～①②」を載せた目的は。事業費、事業期間、970棟の取り壊し移転、減歩、清算金など事業の仕組みはいつ掲載されるのか。

## 16 人目

(3月5日)

### 【3番】池澤 敦(60分)

#### 1. 持続可能な公共交通の確保と広域連携について

- (1)コミュニティバス「はむらん」について
- ①現在のダイヤ・ルートは令和6年2月に改正されたばかりである。土日祝・年末年始の運行を取り止める見直しに至った経緯の詳細を伺う。
  - ②羽村東コース上の停留所に「フレッシュランド西多摩」がある。フレッシュランド西多摩は令和8年2月に「よつ葉の湯」としてリニューアルオープンした。市は今後、利用者の移動をどのようにサポートする考えか。
  - ③運営コストが増加する中、現在の料金設定で、持続可能なはむらんの運行が可能と考えているか。
- (2)デマンド交通について
- ①あきる野市では本格運行、瑞穂町では実証実験運行がされている。南北交通を強化するための現実的な手段として、実証実験を検討する価値があると考えますが、市の見解を伺う。

- ②デマンド交通と「はむらん」を組み合わせることで、より充実した市内の交通網を確保できると考えるが、市の考えを伺う。
- (3) 広域連携の可能性について 羽村市コミュニティバスはむらん運営推進懇談会において、はむらんの「青梅方面への延伸」の声があった。近隣市町と連携し、広域的な公共交通を検討していく考えはないか。
- (4) 官民連携と新たなモビリティへの検討について
  - ①市内には、羽村駅・小作駅と民間事業者間の送迎を行うバスが数多く運行している。これらの事業者と市が共働し、市民に開かれた新たな移動手段として活用することを検討してみてはどうか。
  - ②自動運転バスの実証実験の実施について、今後、市として検討する考えはあるか伺う。